会報　一の宮巡拝　第26−0036·37合併号　令和元年9月8日

# 一の宮巡拝

一の宮巡拝会　発行人　塩原 輝昭
〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12第一大津ビル(株)アルプス·タカス内
電話：03-5823-3901　ファックス：03-3865-2135
http://ichinomiya-junpai.jp　E-mail:junpai@alpst-net.co.jp

## 鳥海山大物忌神社 山頂本社 5度目の登拝を終えて

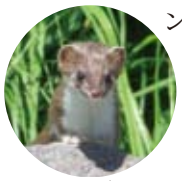
平成から令和へと改元された御代替りの本年、有り難くも5度目の鳥海山大物忌神社山頂本社への登拝がかなった。最初の登拝は平成25年であった。この年は神社界において忘れる事の出来ない年で、20年に一度造り替えられる第62回神宮式年遷宮と、出雲大社60年ぶりの御遷宮が重なったダブル大遷宮の年で有った。出雲大社の国宝本殿は1744年以来4度目の修造だそうで、大社の蘇りの思想とされ大改修で本殿が新たになり御神威が増して我々参拝者も再生の力を授かると言われている。5月には三浦雄一郎がエベレスト最高齢登頂を果たし、6月には富士山が世界遺産となった年でもある。そんな御縁に結び付けて長年懸案だった鳥海山に登る事にした。本社が山頂にあるならば登拝すべきだと言っていた先輩の意を理解したからだった。7月15日、鉾立登山口から鳥海湖、七五三掛から千蛇谷へ下り大雪渓を登って山頂御室の神社へびしょ濡れで着いた。宿泊し、翌日朝拝の時、権禰宜 大滝様に御祈祷をしていただき感激の参拝だった。

山頂本社と御室全景　後方は新山

「御皇室の弥栄・安寧」と「一の宮巡拝会の発展」を山頂本社で5度の御祈願をしたいと思いたったのが此の時である。とはいえ5年連続で登拝する事は難しく足掛け7年掛かった。次の年は腰痛・体調不良で見送り、平成27年に湯の台口ルートから7/19日に登拝し、20日の早朝、禰宜 鈴木洋之様に祈願の祝詞を上げて頂いた。ガスが濃く辛うじて迷わず登れた天候だった。次の登拝は、平成28年で有ったが、山の日が「国民の祝日」となった年で登山ブームの感じが強かった。この時は、秋田県には一の宮がないので、あえて秋田県側からの登拝を選んだ。8/12日矢島口から登り途中から康新道コースを登った。このルートの上部は絶景と花のコースで素晴らしかった。目先に新山と七高山の山頂が望め好天にも恵まれ素晴らしい登拝となった。七高山を経て急な岩場を下って頂上御室の神社へ無事到着し宿泊した。この時は高橋廣晃宮司様がおられ御縁をいただく事になった。13日早朝には快晴で稀に見る事が出来るという「影鳥海」を日の出とともに堪能した。日本海に美しい出羽富士の影が映りとても素晴らしかった。御祈祷をして頂き、いつも通り大きな御神札をザックに収め、帰路は七高山から上りとは違うルートで七ツ釜を経由し祓川神社へ下山した。山麓の神社を巡り秋田市内へ向かった。

次の年は単独で平成29年の8月12日から13日に鉾立から七五三掛・千蛇谷を通る最初に登ったルートで登拝出来た。この年も高橋廣晃宮司様の御祈祷で、20年に一度の御遷宮が7月に終わったばかりの新宮で祈願して頂く機会に恵まれた。拝殿内は桧の香しいかおりが漂っており何とも新鮮な気持ちになれた。

そして迎えた平成30年は新年初参り予定の前々日1/25日に帯状疱疹にかかり翌日即入院となり、それに続き3月には椎間板ヘルニア脊柱管狭窄症の手術の為長期入院を余儀なくされ、以後リハビリに通う日々を送っていました。本年5月令和元年を迎えて何とか今夏中に鳥海山5度目の登拝を果したく、トレーニングを重ねていましたしが、実際に登ってみたら体調はまだまだでした。7月13日千蛇谷ルートから漸く御室に着く直前、偶然にもオコジョが目前に現れその可愛さに勇気づけられて5度目の登拝が出来ました。


オコジョ

その日夕刻、禰宜 鈴木洋之様に御祈祷をして頂き永年の祈願を達成することが出来ました。

一の宮巡拝会・代表世話人　塩原 輝昭 記

入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

**一の宮巡拝会 本部事務局**
〒111-0055 東京都台東区三筋1−12−12第一大津ビル(株)アルプス·タカス内
電話：03−5823−3901　ファックス：03−3865−2135
E-mail:junpai@alpst-net.co.jp

**一の宮巡拝会 関西事務局**
〒573-1197 大阪府枚方市禁野本町1−8−32−307 中谷 英明内
電話：072−848−8980　ファックス：072−848−8980
E-mail:nakatani8980@maia.eonet.ne.jp

入会金・会費等お振込先：郵便振替（大阪）00990-5-81515
http://ichinomiya-junpai.jp

# 報告 鳥海山大物忌神社 山頂本社　再会に当たって

平成から令和へと改元された御代替りの本年、まだまだ術後の体調が完璧ではなかったが、有り難くも通算5度目の鳥海山大物忌神社山頂本社への登拝がかなった。そこで出会った三つの事柄を記しておきたいと思います。

先ず以って**人との出会いの尊さ**と、一つの願掛けと言えども**登拝しなくては叶わない山上での祈りの尊さ**と、目は見えねど**神という畏敬の存在の尊さ**と、**大自然の荘厳なるステージ**の中でしか味わい得ない時空を感じる事が出来た鳥海山であった。

全国の一の宮神社の中でも**山頂に本社が鎮座**するのは出羽国・鳥海山大物忌神社と越中国・雄山神社峰本社の二カ所であろうと思います。奥社又は奥宮は各所にあるが…。

鳥海山へ２度目の登拝を実施したのは**平成27年7月**であった。車道終点から登る湯の台口コースを選び 7/18 日の早朝 登山口に着いたが激しい雨降りで待機していた。風が強く増々雨も激しく降り続き何組かのパーティーが諦めて下山してきていた。私たちは根気よく待ったが午後1時過ぎてやはり諦めざるを得ないかと思い始めた矢先、突然の様に前方の雲が流れ青空が見え始めた。パートナーと相談した結果、東京から車で夜どうし走って来た事もあり、車中泊ではなく滝の小屋迄登り一泊し 翌 7/19 日早朝から登る事とした。滝の小屋はこんな事が無ければ泊まることはないだろうと思える場所にあった。二階の窓か

禰宜 鈴木洋之様（左）と塩原

チョーカイフスマ

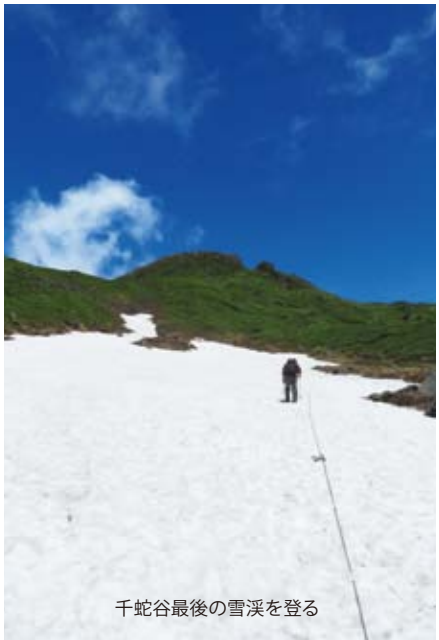
大物忌神社山頂本社への参道

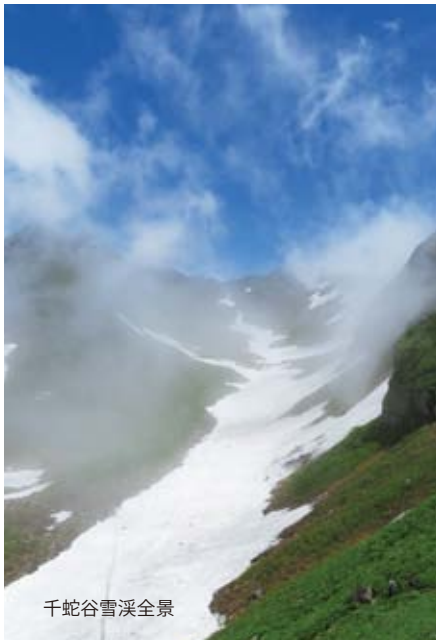
らはすっかりと雲の取れた夕暮れの鳥海山外輪山の山容が大きく望まれ、明日の好天が期待できた。夕食時小屋の主人との対話も弾み楽しくビールが飲めた。自家製だと云う枝豆がやたらと美味かったので残った二握り程の豆は翌日の行動食としていただいた。
翌朝 7/19 日は 5 時過ぎに小屋を出発し河原宿を目指したが天候は良くなかった。朝から深く濃い霧に包まれていたが八丁坂を超えた辺りで素晴らしい日の出の一瞬「**神秘的黎明**」を拝する事が出来た。

「神秘的黎明」鳥海山 湯の台口ルート大雪渓手前から

大雪路、小雪路を霧に惑わされながら登り、鳥海山屈指の急坂と言われている「あざみ坂」を登り切ると外輪山の伏拝岳（ふしおがみだけ）に到着した。外輪山の稜線を登り御室への下降路を経て参籠所に着いた。**宿泊と御朱印拝戴と御祈祷**を申し込むと神職さんから御声を頂いた。『椿大神社の関係の方ですか』と…この時出会った方が **禰宜 鈴木洋之様**で、聞くところに由ると 神宮三節祭「12 月の月次祭」由貴夕大御饌・由貴朝大御饌の儀、奉幣の儀、を私が崇敬する一の宮神社の一社である、**椿大神社の禰宜 岩田健司様と共に 祭儀奉仕**をさせて頂いた者です。との自己紹介が有り、それ以来、鳥海山大物忌神社での**御縁をいただき今日に至っています**。山頂本社での出会いは今年で二度目となりました。
**「御皇室の弥栄・安寧」**と**「一の宮巡拝会の発展」**を**山頂本社で５度の御祈願**をしたいと思い立ってから７年が過ぎましたが、5度目の登拝が達成出来ましたのも**良きパートナーに恵まれた事**と大物忌大神様をはじめ**数多**（あまた）の**神々様の強靭なる御守護**をいただけた結果であろうと思えるただ今の心境です。
手術後の本格的な登拝を鳥海山大物忌神社で果たせた事が良かったと感じています。御祈祷後、今年は禰宜 鈴木洋之様と一緒の記念写真（左頁）を撮らせていただきました。禰宜 鈴木洋之様から山頂本社ご遷宮の事で知らなかった事を幾つか教示を受け、改めて登拝出来た事の素晴しさを感じつつ 14 日に下山致しました。大平山荘で汗を流し、遅い昼食を済ませて吹浦口の宮へ向かい、居あわせた**宮司 高橋廣晃様にも山頂で過去２度お世話になった**ご挨拶が出来ました。その後、長い石段を登り大物忌大神様と月山大神様に御礼の挨拶を済ませる事もできました。その折、山頂で鈴木様からご教示を受けた、過去山頂にあった本社の旧殿が並列して鎮座している場所も参拝し、鈴木様から聞いた宮大工の匠の業を比較して拝する事もできました。後日確認したところ 40 年前の古い宮は「雷電神社」で平成 29 年に下ろした宮は「風神社」で末社で有るとの事でした。両神は強い自然神であり、五穀豊穣の願いがこめられているのではないかと推測しています。

塩原 輝昭 記


千蛇谷最後の雪渓を登る


千蛇谷雪渓全景

日本海に浮かぶ飛島

報告

# 一の宮巡拝会　全国交流会
# 木曽 御嶽神社と赤沢・御神木伐採跡地

期日：令和元年5月18日(土)～19日(日)

5月18日 御嶽神社（木曽町三岳 里社本社・正式参拝）・・・ 御嶽山黒沢口御鎮座
御嶽神社（王滝口里宮・正式参拝）・・・ 御嶽山王滝口登拝口1合目御鎮座
水無神社（すいむじんじゃ）自由参拝
5月19日 木曽・上松～赤沢休養林・赤沢森林鉄道・丸山橋～檜大樹～神宮・御神木伐採跡地拝

前日は、伊勢一の宮・椿大神社の「椿講結成50周年記念大会」が名古屋のマリオットアソシアホテルで開催されたため巡拝会会員は各々名古屋のビジネスホテルで宿泊しました。当然参加した仲間は17日夕食を兼ねた直会の飲み会が行われました。もれ落ちることなく18日の朝は元気に集合致しました。

当日名古屋に参集した会員と観光バスにて木曽へと向かいました。中央高速道路を中津川で一般国道へ木曽福島～木曽町三岳の御嶽神社里宮・木曽総社にて宮司 武居哲也様の祝詞奏上を戴き正式参拝をする。今回は、総勢21名の団参だが丁度まとまり良い人数なのかも知れない。新緑がとてもきれいな季節で、心身が清められる思いがしました。

次に王滝口里宮へ向かい30 分程で王滝口の駐車場に着き社務所へ行き正式参拝の挨拶をする。社務所から下へ69段の石段があるがカットする。
先ずは382段の石段を登り里宮本殿を参拝する。
登るにつれて空気が違う感じを受ける、石段を登りきると半円状の岸壁に囲まれる様な空間があった。その一角に里宮本殿の拝殿があり参拝する。本殿をよくよく見ると岩窟の中に神明造の建物があった。岸壁を伝わる水滴は青い苔の中に滴る。傍の御神水は「信州の名水・秘水」として認定されている聖水だ。
神氣を充分戴き 382 段の石段を下り社務所前まで下る。多数の御朱印も記帳され、正式参拝が遥拝殿で行われた。反対側にある手水舎の水は、先ほど登っ

た里宮本殿の裏岸壁より涌出の御神水なので飲用も出来ると記してあったので又来る日を誓って飲用した。何やかと時が過ぎ16時をまわってから本日の宿泊地木曽文化公園内の「駒王」目指して出発する。
途中、木曽町福島の水無（すいむ）神社…飛彈国一の宮・水無（みなし）神社から勧請された分社なので自由参拝として寄ることにした。ご祭神は高照姫命でやはり木曽に多い出雲系の神様であった。

第2日目は、赤沢自然休養林（森林浴発祥の地）と言われているお薦め国有林へ赴いた。
私が初めて池田様に案内して頂いたのは平成18年11月の事で、早13年が立っている。それ以後知人をつれたり、一人で来たり何回か訪れているが、何時も天気に恵まれ清々しい気持で心をリフレッシュして帰れるお気に入りの場所なのである。中でも神宮の御神木「御樋代木」が伐り出された場所は、とても素晴らしい気持になれる空間で、この度、会員の皆様と訪れる事が出来てとても良かったと思っております。
赤沢森林鉄道の可愛らしいトロッコ列車で丸山渡の停車場まで登り下車する、その後は池田聡寿様のナビゲートでかっての神宮備林の木曽ヒノキの事などとても詳しくご案内して頂きました。極めつけは御神木「御樋代木」伐採地の前で 木遣り唄を奉唱してくれたので感動し涙をこらえました。巡拝会は池田様が在籍しておられるので、何時もいつも気安く木遣り唄を聞く機会が多くあるのですが…桧の林立する此の大自然の聖地で、木遣り唄を聞けるなんて誠に幸せな会なのだと思っています。
此の紙面をお借りして池田聡寿様に改めて厚く御礼申し上げる次第でございます。

赤沢自然休養林の整備された遊歩道をウォーキングし、今回も又新たなパワーをいただき下山しました。赤沢を後に、くるまや国道店のお蕎麦で昼食となり和やかな昼宴となりました。その後は池田木材株式会社を訪問させていただき、桧の諸々を見学させて頂きました。樹齢千年越えの池田木材様の御神木「木曽ひのき大樹」を拝見させて頂きここでも感動でした。池田様のお見送りで木曽上松を後に、中央道経由で順調に名古屋駅には午後5時過ぎ到着し解散致しました。

此の二日間、皆様のご協力を頂き素晴らしい時間を共有できました事、誠に有り難うございました。

事務局 記

報告

# 一の宮巡拝会　恒例・新年初参り
# 紫峰に鎮まる 筑波山神社と関東最古の八幡さま

平成31年1月26日(土)

筑波山神社（正式参拝）～関東最古の八幡様と伝わる 大宝八幡宮（正式参拝）
大生郷天満宮（御廟天神）～一言主神社

東京駅 午前８時30分集合～大型観光バスにて９時出発、今回も各地から 29 名の参加者が協力してくれる事となった。好天の常磐道を経由して先ずは筑波山神社へ向かった。
新年のお忙しい中、巡拝会単会で正式参拝をさせて頂きました。拝殿内で記念写真撮影後境内を権禰宜大久保様から案内をしていただいた。特に春日社と日枝神社に付いて詳しく説明して頂き、日光東照宮より早く彫刻されたと謂われる「見ざる 言わざる 聴かざる」の三猿が日枝神社向拝中央の蟇股に彫られており、これも左甚五郎作と言われている（後日調）。
次に関東最古の八幡様と伝えられている 大宝（だいほう）八幡宮向かう。車中で昼食の寿司弁当を随意食す。大宝八幡宮に着くと有難くも宮司様がお迎えに来ていて参道を拝殿前まで案内された。拝殿前で神社の千古の歴史を秘めた由緒と近年は宝くじ祈願と財運ご利益で知られる事になった言われなどユーモアたっぷりに話され、会員皆々の笑いを誘ってくれました。その後、昇殿し正式参拝をさせていただき、参加者全員が玉串奉奠をさせて頂きました。更に拝殿内の説明と境内奥の案内を頂き、宝物殿も開場して下さり厚く感謝申しあげます。次に大生郷（おおのごう）天満宮を自由参拝をしました。社を目前に交通事故処理があり 300M 程歩いて境内へ。由緒によると、菅原道真公の奥都城と定めて社殿を建立し、遺骨を御神体として遺族によってお祀りされた天満宮で日本三天神・御廟天神もいわれている神社だった。合掌
今回、最後の巡拝地は常総市大塚戸鎮座の一言主神社に行きました。一間社流造の見応え有るお社で、ご本殿真後ろにあるご神木は杉の大樹で樹齢は不明というが強いパワーを発散している。傍には御神水が絶え間なく流れお水取りに使われているようだ。
一言主大神は大国主命の御子神で 別名を：事代主神又は恵美須神とも言われいる。たった一言の願い

事でも聞き入れてくれるいう。念のため神職様に聞いてみたら 一言と言わず一言も漏らさず聞き入れて下さる。という意味もあり万能神なので真剣に祈願致しましょう。との事でした。一言主神社を後に、バス車中では神社から戴いたご神酒を味わいながら帰京し直会の会場へ向かった。後日、再訪問し素晴らしい正式参拝をさせて頂きました。

事務局 記

## 初参りに参加して

巡拝会の平成31年新春初参りに参加させていただき、ありがとうございました。私どもにとり2年ぶりの参加でしたが、みなさんのお元気なお顔に接し、嬉しかったしだいです。塩原様には大病よりすっかり回復され、またお元気に登拝にも、とりくんでおられるよし、さらなるご活躍をお祈りします。

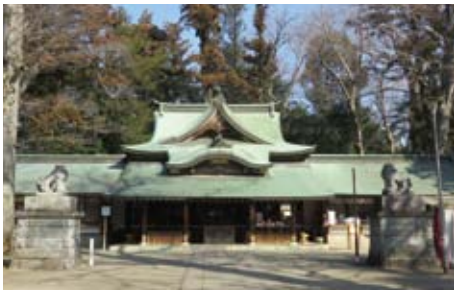
筑波山神社、大宝八幡宮、大生郷天満宮それに一言主神社、いずれも、それぞれの地方に根づく独特の歴史、風景、風格があり、一の宮の巡拝とはまた違った感銘を受けました。わたしどもも、今度、田舎へ帰った折に葛城の一言主神社へ詣でてみようと考えています。

神官をはじめ神社に係る方々が、一生懸命にわれわれをもてなしてくれたのも印象的でした。参拝者が増えることを願っています。

巡拝が終わっての直会・新年会では、おいしい料理とともに、「布橋灌頂会」の立山信仰の儀式の話をおうかがいすることができて良かったです。「布橋灌頂会」は日本ユネスコ「未来遺産」に登録されているそうですが、この儀式の事を知って現地布橋に訪れた塩原様から “今世と来世を分ける橋” と “立山連峰” の２葉の大判のカラー写真を見せていただきました。その時の感動をご自身で語っていただき幸運でした。かたわらの女性会員の方々も熱心に聞いておられました。「立山は登山するのでなく、登拝すべき山岳なのだ」の言葉が残りました。

寒さ厳しきおりから、お元気にお過ごしになるよう願っています。また、来年お会いできるのを楽しみにしております。

有本 勝彦



# 一の宮巡拝会関西ブロック活動報告

一の宮巡拝会 相談役　関口 行弘

関西ブロックでは平成29年の秋から22社参りを行ってきました。およそ3カ月に1度の開催でしたが、常時25人ほどが参加してようやく平成31年の4月に22社全てを無事完拝することが出来ました。22社は平安時代に定められた神社の社格で、国家の重大事や天変地異が起った時に朝廷から特別に奉幣を受けていた神社で、特に格式が高いとされています。
その神社の所在は三重県の伊勢神宮をはじめ京都、奈良、大阪、滋賀と関西の会員には身近で初詣などよくお参りしているお宮さんです。第1回目は石清水八幡宮と大原野神社そして松尾大社で、当日は京阪電車の八幡市駅に集合して会員の乗用車に分乗してお参りをしました。遠くは尾道市から柿本さん、三島市から井上さんも参加しての日帰りコースでした。また1泊2日で奈良の丹生川上神社にお参りした時は、高野山蓮花院の宿坊で宿泊し、巡拝会でお世話になっている東山泰清大僧正との懇談会もありました。毎回、趣向を凝らした企画を考え皆さん楽しく巡拝が出来ました。

最後の巡拝コースとなった廣田神社と住吉大社そして伊勢神宮のお参りでは、会員の広島県尾道市在住の細谷先生から教えて頂いた廣田神社のパワーストーンを紹介。参加者全員が石に手をかざしてそのパワーを頂きましたが、25名の参加者の中8人の方がなんと熱いエネルギーを感じられたそうです。
また、お伊勢参りでは先ず二見興玉神社でお祓いを受け、外宮、内宮を参拝。内宮では御垣内参拝を行い最後に朝熊山金剛證寺にもお参りしてあしかけ3年を費やし完拝しました。今回の22社参りでご一緒した中田紀代子様、阪口知子様、小西邦子様の3人が新たに令和元年5月に会員になって頂きました。

現在次の巡拝プランを考えていますが、年内には巡拝会本部で発行の御朱印帳を手に東京近郊12社参りを企画しています。1泊2日で全てお参り出来るそうです。日時は令和元年11月12日(火)〜13日(水)を予定。塩原代表と関東ブロックの方々との交流会・懇親会も是非実現し、令和の新しい年をお祝いしたいと思います。詳細は後日改めてご案内致します。

天空の社と言われる丹生川上神社上社で望月康麿宮司様との記念写真
(平成30年6月12日)

廣田神社のパワーストーンに8人の会員が熱いエネルギーを感じた

## 元准勅祭神社 東京十社について

慶応三年十月、将軍徳川慶喜は大政を奉還し茲に徳川幕府は約三百年の終止符をうった。直後明治天皇は、同年十二月、王政の復古を宣し江戸を東京と改め、慶応四年九月「明治」と改元され十月江戸城を皇居とし、新しき東京の出発が始まったのである。そのめまぐるしき変革の中に、明治天皇は、東京鎮護と万民の安寧を祈るため、明治元年十一月八日、准勅祭神社として東京十社を定め、勅使をして御幣帛を捧げ御祈願されました。以来百有余年今や私共の東京は、全国の首都として政治、経済、文化の中心となり、異常な発展を遂げましたが、之は偏に明治天皇様の御えい慮の下、天地神明の御加護に依るものと存じます。昭和五十年、天皇御即位五十年の佳辰を迎え、関係神社相議りまして十社巡りを企画致し、国家の隆昌と御家運の繁栄とをお祈りすることに致しました。
就ては此の意義深いご巡拝に何卒御賛同下さいまして、多数の方々の御参拝をお奨め申上げる次第でございます。

報告

# 摂津国一の宮巡拝＆全国交流会

期日：平成30年11月17日（土）～18日（日）　一泊二日

事務局

平成 30 年度の全国交流会は、大阪市中央区久太郎町に鎮座する摂津国一の宮・坐摩神社で行われました。

第一日目の午後1時集合に全国各地から18 名の会員が参加されました。

13：20 分～坐摩神社を正式参拝をさせていただき、宮司 渡邉紘一様から神社由緒説明を頂きその後、末社・陶器神社の開帳もして頂き社殿内の貴重な陶器の数々を拝見させて頂いた。神社の境内のあちこちに全国から奉納された陶器の狛犬や灯籠等が点在している事を今回始めて知った。陶器神社の例祭日は毎年 7/23 日で、寡っては陶器問屋街で 200 軒も軒を連ねており陶器神社はその守護神であったとの由緒説明を聞き改めて作品に見惚れてしまった。

大阪府神社庁の神社会館５階の部屋をお借りし午後14：20 分～ 16：30 分迄、18 名の出席で全国交流会・総会が開催された。物故会員と一の宮神社の帰幽された宮司様の黙祷を行った。

その後 30 年度の事業報告と会計報告が行われた。31年度の事業計画の一つに「橘 三喜」を再認識する活動を再度遂行する考えを前進させる旨、代表世話人塩原から意見が出された。明年は巡拝会も設立20 年を迎えるので、何か記念巡拝を企画してはどうか・と関口相談役からの意見も出された。諸々意見交換の後、翌日の行動予定が担当者から通告されて、今回の全国交流会は終了した。その後、本町・美々卯に移動して盛況なる懇親会が行われた。

第二日目は、昨日に続き好天に恵まれ、午前 8 時坐摩神社前で集合しマイクロバスにて和泉国・大鳥神社と摂津国・住吉大社から河内国・枚岡神社へと一の宮三社巡拝の実施に入った。枚岡神社では宮司中東様にご挨拶だけと思ったが…御朱印帳の記帳でお忙しい中、時間を割いて下さり有難いもてなしと宮司の講話を 35 分程拝聴する事が出来た。参加者一同感動。最後迄お見送りを頂き深き感謝。午後４時過ぎ、新大阪駅に無事到着して散会となった。

摂津国一の宮 坐摩神社　平成30年11月17日

大鳥神社本殿

枚岡神社参道

住吉大社正門 角柱鳥居（住吉鳥居）

住吉大社・優美な反橋

住吉大社 背に子狛・珍しい狛犬

## 「諸国一の宮巡り 掛軸」頒布のお知らせ

日本全国106社を巡拝する新しい旅の始まりです。『諸国一の宮巡り』の掛軸（仮巻き）が、新たに巡拝会から頒布する準備がようやく整いました。是非、御朱印帳と共に御軸も携え、悠久からの神氣と息吹を求めて一の宮を巡りましょう。きっと素晴らしい神々との出会いと共に日本各地の伝統文化・風土を再認識する旅となります。諸国一の宮の神々が導きのまにまに重積してゆく御神印を拝する時、自ずと頭を垂れ、手を合わせ、素直な心に甦る自分を、感じて下さい。
御軸は護持者の宝物となり御尊家の守護神様となります事を願っています。　**取扱は本部東京事務局**

上 代 40,000円（消費税10%別）

## 「諸国一の宮巡拝成就の証」発行について

朱印帳巻末に完拝証明を致します

全国一の宮102社（108所）を巡る参拝の旅は、広大無辺な御神徳を頂ける祈りの旅でもあります。私たち巡拝者に多くの事象を大自然の法（のり）と共に、神と生きる道を教示してくれる。何巡目になろうと、常に新鮮な御魂になれる場所こそが、一の宮の聖地で在ろうと心得て惟神（かんながら）の歩みを続けて頂きたいと存じます。
今回、諸国一の宮を完拝された会員を祝福させて頂く証しのために『**諸国一の宮 巡拝成就**』の記念御守カード（下見本）を作製致しました。未会員の方はご相談下さい。

東京本部事務局で完拝の証明が出来た方のみ、御希望者には特別頒布をさせて頂きます。（但しお一人様 一組 3,000円、巡拝成就記念お守り携帯カード・完拝証状 完拝者名入 A5判）

**☆お問い合わせは本部東京事務局まで。**
Tel:03−5823−3901（月〜金）13:00〜17:00
（土・日・祝は休業です）
E-mail:junpai@alpst-net.co.jp

これは表面です〈90% 縮小〉（うら面は108社の神社名入り）

### 諸国一の宮巡り 掛軸（仮巻き・新編版）

| | |
|---|---|
| 上　代 | 40,000円 |
| 消費税 | 4,000円 |
| 頒　布 | 44,000円 |

**完拝者割引 15%**　34,000円＋税（3,400）＝37,400円＋送料別
〈当会完拝証明者〉

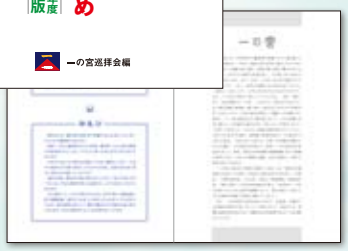
**継続会員割引 10%**　36,000円＋税（3,600）＝39,600円＋送料別
〈令和元年度以後会費納入者〉

◆掛軸は令和元年10月からの消費税率額で記載してあります。
◆送料について：送料は地域により若干の差額が生じる為、全てヤマト運輸からの着払いにさせて頂きます。

## ― 平成30年度 改訂版 ―

# 全國一の宮巡拝のすすめ ＆ 全国一の宮神社所在地

「全国一の宮巡拝のすすめ」・「一の宮神社所在地図」の２刊が広範囲な部分にわたり内容の改訂が4年振りに行なわれました。各一の宮神社様には電話やFAX等で確認の為問い合わせさせていただきましたが、快くご協力を賜わりました事厚く御礼申し上げます。当初の予定より発刊が遅れてしまいましたが、此れから巡拝される方の良き導き書となるものと確信をいたしております。
又、本書の改訂版の再刊に当たりましては、当会初期から世話人を永年つとめて下さいました木下雅晴様の多大なる御援助ご協賛を戴きました。巡拝者への厚い情熱とご教示を賜わり発刊出来ました事をご報告させていただきます。



※本文11頁に記載の⑫⑥ におけるJR吉備線は、公募によって「桃太郎線」という愛称で2016年3月26日から使用されている。

## 全国一の宮神社所在地図（会員は無料） B3判横両面刷り（四ッ折B5サイズ仕上）

「全國一の宮巡拝のすすめ」＋「全国一の宮神社所在地図」をご希望の方は、送付先を明記の上、送料分（1セット）切手 400円（100円切手4枚希望）を同封し、必ず封書で本部事務局へお申し込み下さい。

**ご購入希望者は本部事務局まで ——ご注文の際は番号と品名を必ずご記入下さい。**

**B5判（タテ257×ヨコ182mm） 軽量で携帯に便利！ 墨書きに優れ、好評の和紙御朱印帳です。**

❶ 斐伊川和紙（奥出雲・手漉き）
一の宮神社名・ご祭神名入り
定価一万五千円（送料別）

❷ 斐伊川和紙（奥出雲・手漉き）
本文白紙版
定価一万三千円（送料別）

❸ 四国和紙・楮笹ヶ峰
一の宮神社名・ご祭神名入り
定価七千円（送料別）

❹ 本文白紙版・四国和紙
（楮笹ヶ峰）
定価六千円（送料別）

**格式ある神社二十二社**
**准勅祭社 東京近郊十二社**

❺ 二十二社斐伊川和紙 定価一万円

❻ 二十二社四国楮和紙 定価六千円

＊価格は全て税込です

山頂本社に登録して戴くご朱印

中面見開きの一部です

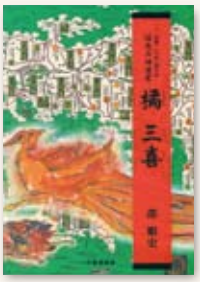
**～女性にお薦めサイズ～**

**新版 小型版 御朱印帳**

タテ180mm×ヨコ127mm
（書き面ヨコ115mm）

❼ 小型版・斐伊川和紙
（B6判）定価五千円（送料別）
（本文三十五折・六十九社分）

**■信念の神道家 橘三喜**



一の宮巡拝会刊 定価二、五〇〇円
会員価格二、〇〇〇円（送料別）

**■別冊一の宮巡拝 創刊号**

一の宮巡拝会編
特価 一、〇〇〇円（送料別）

## 「全国一の宮会」編 公式ガイドブック

**◆全国一の宮めぐり**

一の宮神社の神職で構成されている『全国一の宮会』事務局（大和国一の宮大神神社内）で平成二十年十二月に発刊された公式ガイドブック「全国一の宮めぐり」は必携本となっております。巡拝会発行の「全國一の宮巡拝のすすめ」と合せて活用して頂けたら幸いです。

**◆旅する一の宮**

一の宮めぐりをもっと気軽に旅するガイドブックとして新たに平成二十四年五月一日に発刊されました。一の宮神社案内と合わせ、各神社周辺の観光スポットを紹介した多彩な情報が満載です。尚、各公式ガイドブックは一の宮神社と一の宮巡拝会本部事務局で頒布しており、一般の書店では購入することは出来ません。全国一の宮神社の社頭でお求めください。神社にない場合は、左記一の宮巡拝会本部事務局へお問合わせください。

**頒布価格 各一、〇〇〇円（送料別）**

**一の宮巡拝会 本部事務局**
〒一一一−〇〇五五
東京都台東区三筋一−十二−十二（株）アルプス・タカス内
電　話　〇三−五八二三−三九〇一
FAX　〇三−三八六五−二二三五
**一の宮巡拝会 関西事務局**
〒五七三−一一九七
大阪府枚方市禁野本町一−八−三−三〇七　中谷英明内
電話・FAX　〇七二−八四八−八九八〇

**●入会金及び会費について**
**一般維持会員　年会費　三〇〇〇円**
**賛助会費　一口　三〇〇〇円（何口でも可）**
**寄付金　お志し　※常時受け賜ります。**　薄謝謹呈